これは現実では決してない、夢落ちでも決してない
繰り返しミヤザキさんは存在しない、この文字の上澄みに影ぐらいはあるか
もしれない
また青春１８きっぷで東京に行ったら、道中もしくはその行き先で出会える
かもしれない
なくてもいいこの言葉の粒を噛みしめながらどこかでぼくは探している
喉が乾いて痛いから、なんとなく今日も生きているらしい
ぼくがぼくを悼むためで、それは言い訳
誰も傷つけたくない、自慰行為は気もちがいいから仕方ない
むせ返る生活の匂い、汗の筋
今年もなぞるように、夏
ここはイマジナリー・グリーンハイツ・井田